

〔科目名〕 実証経済分析	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目																					
〔担当者〕 小寺 俊樹	〔オフィス・アワー〕 時間： 授業終了後 場所： 教室	〔授業の方法〕 講義および実習																					
〔科目の概要〕 実証経済分析は、2年生の「計量経済学」に続き、計量経済学について学ぶ科目です。 計量経済学を修得することにより、観察されたデータを用いてマイクロ経済学やマクロ経済学の経済理論について検討できるだけでなく、データを利用して因果関係を調査し政策の効果を計測することができます。この科目では、これまで学んだ統計学や計量経済学の知識を踏まえて、観察データを使って因果関係を推定する手法を修得することを目指し、重回帰分析、操作変数法、パネルデータ分析等について学びます。計量経済学を修得するためには、実際に分析してみることも重要なため、講義に加えて gretl 等の分析ソフトを使った実習も行っています。																							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 実証経済分析は、経済学科の専門科目です。この科目は計量経済学の手法について学ぶことから、2 年生で学んだ「統計学」、「計量経済学」と関連します。 データを分析することが、ビジネスの多くの場面で活用されてきています。企業で働くことを目指す学生は、計量経済学を修得しているとよいでしょう。また、計量経済学の手法により政策の効果を計測できることは、エビデンスによる政策決定を行っていくための重要な要素です。公務員への就職を希望している学生も、計量経済学の手法を身につけておくといよいでしょう。																							
〔科目の到達目標〕 中間目標： 重回帰分析や操作変数法といった計量経済学の分析手法について理解し、分析ソフトを使用して分析できるようになることです。 最終目標： 政策の効果について自ら分析し、分析結果を説明できるようになることです。																							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕																							
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○						○
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
○						○																	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この授業では実証分析に関する理論の学習だけでなく、gretl を利用した実習による分析手法を修得できることが特徴です。																							
〔教科書〕 田中隆一 (2015) 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣																							
〔指定図書〕 加藤久和 (2019) 『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』オーム社																							

<p>〔参考書〕</p> <p>西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>統計学、計量経済学を履修済みであることを望みます。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>実習や講義において、練習問題や課題を複数回提出してもらいます。 複数回の練習問題や課題(70点)と期末課題(30点)の合計点を下の基準で評価します。 A 80%以上、B 70%以上 80%未満、C 60%以上 70%未満、D 50%以上 60%未満、F 50%未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>計量経済学を修得するためには、実際に分析してみることが大切ですので、積極的に取り組んでください。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>製造業での実務経験</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、計量経済学の基本 内 容: 単回帰分析の復習 教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第5章</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(1) 内 容: 重回帰モデル 教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第6章</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(2) 内 容: 重回帰モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第7章</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(3) 内 容: 不均一分散 教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第7章</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(1) 内 容: 内生性の問題、操作変数のモデル 教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第8章</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(2) 内 容: 操作変数のモデル 教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第8章</p>

第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(3)</p> <p>内 容: 2段階最小2乗法</p> <p>教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第8章</p>
第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(1)</p> <p>内 容: プロビットモデル、ロジットモデル</p> <p>教科書・指定図書 『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』 第5章</p>
第 9 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(2)</p> <p>内 容: 順序プロビットモデル</p> <p>教科書・指定図書 『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』 第5章</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(3)</p> <p>内 容: 多項ロジットモデル</p> <p>教科書・指定図書 『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』 第5章</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(1)</p> <p>内 容: 差の差の推定</p> <p>教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第9章</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(2)</p> <p>内 容: 固定効果モデル</p> <p>教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第9章</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(3)</p> <p>内 容: 変量効果モデル</p> <p>教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第9章</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか): マッチング法</p> <p>内 容: マッチング法</p> <p>教科書・指定図書 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』 第10章</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ</p> <p>内 容: 授業のまとめ</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>期末試験は実施しません。</p>